令和元年度まちかどミーティング会議録

開催日　令和元年９月２５日（水）
地　区　柏木町地区
会　場　柏木町町内会館

〇司会　それでは、意見交換の時間に移らせていただきます。

この意見交換につきましては、冒頭、御説明をさせていただいたとおり、町内会からの要望も含めた意見交換とさせていただきます。最大、８時をめどに終了したいと思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

なお、町内全体に関わらない個人的な要望、苦情等につきましては、市の担当、多数来ておりますので、まちかどミーティング終了後に個別に対応をさせていただきますので、御了承いただきたいと思います。

また、御発言の際には、挙手の上、マイクをお持ちいたします。お住まいの町名とお名前を述べてからお一人一件ずつ、簡潔に発言をよろしくお願いいたします。

それでは、市政に期待すること、日頃お気付きの点、御意見等ある方は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

はい、後ろの方。

◆市民　この町内会の柏木町の[redacted]と申します。皆さん、御苦労さまです。簡潔にお話しします。スウェーデンの１６歳の女の子、国連で地球が危ないのにあなた方は自分の国のもうけのためにいろいろ言っている。どうしてですか、と怒って言いました。あの方はすごい勇気があります。それで、私、最初、何、この人と思ったのだけれども、二、三日新聞を見ていたら、まあ、あの表情。うん、いやあ、すごいですね、驚きました。で、私はね、苫小牧に来てから高校卒業して５０年になります。１８プラス５０で６８になります。それで、何を言いたいかというと、命は、命あっての物種とよく言いますよね。隣の国、はっきり言うと北朝鮮。あのミサイルはまだ完全じゃないです。それで、試射をしていますが、今まで何回も飛んできて、秋田、東北を越えて、太平洋のほうに落ちています。それと、最近は、津軽海峡を真っすぐ通って、向こうのほうに落ちています。ということは、苫小牧にも落ちる可能性は、確率からいったらかなり高いです。それで、今、日本は、イージスアショアであるとか、いろいろなミサイルをもってやっているけれども、どんと上げて、上から、宇宙からストンと落ちたら撃ち落とすことは不可能だと思います。ですので、私、今、言いたいのは、北朝鮮が打ったときに、どこに落ちるか。これを防衛省は、それは確認できますと言っています。私も電話しました、防衛省に。いや、本当ですよ。ですから、苫小牧もその辺のことをいち早く教えてほしいのです。なぜかというと、私はもう６８年生きたからいいのですけれども、先ほど劇で、寸劇で言いましたけれども、子供、孫まで元気にみんな長生きするのには、そんなミサイル一つで死にたくはないですよね。だから、すみません、話を戻すと、北朝鮮が打ったときは、いち早く私たちに教えてください。

○司会　危機管理の観点で、回答をお願いいたします。

◎危機管理室主幹　どうもこんばんは。市役所で防災担当しております危機管理室の前田と申します。よろしくお願いします。今、北朝鮮のミサイルの話、出てきました。まあ、あれ、平成２９年ですね、随分、夏場、ミサイル撃たれたということありましたけれども、それで、これ、仕組みとして国なのですけれども、Ｊアラートという言葉をお聞きになったことありますかね。そういう国民保護の観点でのそういう仕組みがありまして、Ｊアラートというものの情報が市役所のほうに来ることになっています。それで、今、ちょっとそのときのお知らせの仕方、実は二種類あります。一つはですね、ちょっとこの地域ではないのですけれども、錦多峰川から西側には防災行政無線って、屋外スピーカーが付いてますよね。あれで鳴ることになっています。こう、今、ミサイルが飛んでいますですとか、あるいは、まあ、どこかに着弾しましたという情報が、防災スピーカーで鳴ります。それは、錦多峰川から西側。あるいは皆様の中で防災ラジオというものをお持ちの方はいらっしゃいますか。ちなみにお持ちの方。ありがとうございます。はい、同じようなそういうＪアラートの情報というのは、防災ラジオでも流れるようになっています。ただ、これ、市民の皆様全員ではないということもありまして、まあ、平成２９年にこういったお話がありました。それで、去年の９月１日からなのですけれども、ちょっと暫定的な、今、対応なのですが、消防のサイレンありますね、はい。あれがもしもそういうＪアラートのそういうミサイルが飛んできましたという情報が入ったら、今、ちょっと消防のほうとも話をしまして、一番確実に伝わるということになると、今、鳴らせるのは１分間なのです。１分、もし、そういう情報だと、１分間鳴らすということで、まあ、暫定なのですけれども、そういう対応をさせてもらっています。そういう形でもって、もしもそういうサイレンが鳴ったりですとか、防災ラジオが鳴った場合には、やっぱりミサイルですので、屋内に居て、で、まあ、できれば窓から離れるですとか、そういう対応をお願いできればというふうに思っております。以上です。

○司会　よろしいですか。はい。

それでは、ほかに御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。はい。

◆市民　私、川沿町の[redacted]といいます。去年か、市長さんに前にも質問した者なのですけれども、カジノについて質問なのです。せんだってですね、アイビーで「あいＬＯＶＥうとない湖」というフォーラムが開催されて、新聞でも大きく取り上げられたので御覧になったかなと思うのですけれども、それについての市長さんの見解を聞きたいのですけれども。三つくらいあるのですけれども、一つは３人のかたの話で、一つ目は元サンクチュアリのレンジャーのかたの話で、カジノの予定地になっている所に、川の、ウトナイに注ぐ川の上流部がちょうど建設予定地に重なっているということで、そこに建設された暁にはですね、湿地が乾燥してしまって、逆に洪水が起きると。水を吸い取らなくなって。そういうことを指摘していました。その話と、二つ目はウトナイで漁業を営んでいる方が、もう、今でもいろいろな魚類とかを地引き網で捕ったりして、豊かな自然が今も続いているという話でした。で、３人目が前田菜穂子さんという熊の専門家のお話だったのですけれども、私は一番それが大変だなと思ったのは、ちょうど熊は何年間もデータを取りながら観察して、予定地の所は高速道路の山側ですものね。そのエリアが千歳空港の横の高

速道路の山側も予定地にかかっているのですけれども、そこはちょうど熊の通り道で、以前ね、市長さんがそれを御存じかどうか分からないのですけれども、苫小牧の猟友会の方々が、そこの地域は大事な樽前山麓から日高に移動する熊のエリアを兼ねているので、そこではハンターは熊を撃たないという取り決めをしたそうなんです。そういうことがあったことを市長さんは御存じなのかどうかを聞かせていただきたいということと、高速の下に熊の足跡がいっぱい付いて、その写真も見たのですけれども、本当にそこが断ち切られてしまえば、個体の保存というのですか、日高の熊とこちらの胆振のほうの熊とが行ったり来たりするところが断ち切られてしまうと、学術的にも大変なことが起こるというような話だったと思います。それで、何とかそういう貴重な苫小牧の、私も苫小牧で育ったのですけれども、昔からあるその自然の形が変わってしまう、破壊してしまうというカジノについては、反対している一人なのですけれども、市長さんのお考えを聞きたいと思います。

◎市長　はい。これまでも何度か出てきた問題であります。一つは、昭和４８年に、我々の先輩が苫小牧の目指すべき都市像を、人間環境都市というふうに定めています。当時の環境という概念と、今日の概念では違うかも分かりませんが、まあ、我々の世代もその昭和４８年に策定した人間環境都市という考え方を今でも総合計画の中に明記をし、次の世代にもこの考え方をつなげていく。これは、まあ、強い意志を持って苫小牧が目指すべき都市像、人間環境都市というものを貫きたいというふうに考えている。まあ、これをまず知っておいていただきたいと思います。

まあ、二つ目にですね、まあ、今回ＩＲの候補地が、何かすごい、まあ、あの辺だという、非常にアバウトな広大な植苗の地区ということなのですが、まあ、それは間違いありません。しかし、その中で、実際にＩＲが展開されるのは、あの土地全部になるわけではありません。我々、今、臨空ゾーン、新千歳空港の近くに国際リゾート構想というのを打ち立てて、今まで余りあの地区に人を住むということを考えてこなかった苫小牧の歴史の経過があります。ゴルフ場ぐらいでした。それには理由がありました。それはなぜかというと、苫東という、まあ、以前は重厚長大型の産業立地、そうすると公害問題で非常に悩んだ苫小牧でありますので、あそこに人を住むよう、植苗地区に人を住むようになると、ちょうどその真北に位置しますので、また公害問題が出てくるということで、あそこには余り人を住まわせないという政策をずっととってきた歴史的な経過がありました。それはそれで当時としては間違いなかったかと思います。それほど公害問題で悩んだ日本、そして、苫小牧でもございました。まあ、しかし、時代が変化し、苫東でそういう重厚長大型の産業立地にというものはもう考える必要もなくなる時代であります。そこで、逆に、臨空ゾーン、苫小牧は国際空港と国際港湾が持った非常に立地的に優れた立地を持った町でありますから、臨空ゾーンの開発がですね、私も苫小牧で生まれ、苫小牧で育ち、苫小牧で骨を埋める一人でありますけれども、あの地区にあれだけ自然、あるいは、ほぼフラットな地形、あるいは河川、あるいは沼というのをあんまり考えたことがなかった自分がいました。まあ、多くの市民の皆さんもそうだと思います。せいぜい、ゴルフ場ぐらいだろうと。まあ、しかし、臨空ゾーン、既存産業がですね、人口減によって需要拡大を目指した設備投資がもうこの国では見込めない。まあ、やっぱりこの町に生まれ住んだ若い人たちが、この町で人生をチャレンジする

ような苫小牧にしていかなければならない。その背景にはですね、もうずっと以前から今でも若い人たちがどんどん、どんどん道外、あるいは市外に流出してきた町であります。しかし、つい最近まではそれを上回る流入人口があったので、人口は伸びてきました。余り流出ということに対してケアしたことがなかったのですね。しかし、これからは、やはり、流出をいかにとどめて若い人たちに自分の生まれた町でチャレンジをしていくというようなまちづくりを展開しなければ、じり貧になってしまうのではないか。これは苫小牧だけではなくて、この国全体の問題であります。まあ、そういう背景の中で、確かに人間環境都市を目指す苫小牧、自然との共生をしっかりやりながら、あそこを開発していこうという考え方であります。そのことによって、雇用の場という、特に観光産業はほとんど道外に流出してきた経過があります。これは北海道全体の問題です。で、そこを、この統合型リゾートイコールカジノというレッテルを張っている政党もないわけではありませんが、是非、カジノは３％、面積で３％以下。ＩＲという事業モデルをゼロからスタートさせているのはシンガポールだけなのです。ラスベガスにしても、マカオにしても、もともとカジノがあって、今、カジノだけでは食えなくなったかどうか分かりませんが、ＩＲ、統合型リゾートと言っていますけれども、統合型リゾートをゼロからスタートしているのはシンガポールだけなのです。で、あのセントーサ、シンガポールには二つのＩＲがありますが、特にセントーサに行くと、子供たち家族連れがたくさんいて、どこにカジノがあるか分からない。これは、本当に行った方でなければなかなか分からない。言葉で説明しても「そんなことないだろう。」といつも言われるのですけれども。まあ、実際、３％以下というのは、そういう感じになっていきます。是非、統合型リゾートの事業モデルというものを、我々、もっともっと市民の皆さんに理解していただくために努力をしていかなければなりませんけれども、今、御質問された方が心配しているようなこと、ＩＲができてから質屋が並んで反社会勢力が闊歩する、議会でもよく言われましたけども、逆にシンガポールはですね、ＩＲができて、ギャンブル依存症は増えていないんです。昨年、日本で初めてギャンブル依存症対策法案ができました。今まで四つの公営ギャンブル、パチンコがあって、まあ、さまざまな問題がありながら問題にならなかったのは、日本に法律がなかったからなのです。昨年７月、初めて、ギャンブル依存症対策法案ができました。まあ、これも私はＩＲ効果の一つだと。やっぱり法律ができれば、政治の場でいろいろなこれから問題になってきます。そういうことも含めて、御心配いただくことが。まあ、我々、しっかりと規制しながら、取り組んでいきたいと考えております。

最後になりますけれども、熊の問題よく言われます。で、熊の生態はですね、なかなかはっきりしていないところがありますけれども、ああいうところに開発すると、どんどん、どんどん人間のほうに来るのではないかという懸念を、ことしのまちかどミーティングで言われた方も。それは、ＩＲ賛成とか反対ではなくて、熊の生態についてもう少し正確にやって、やっぱり人間の近くに来ないようにすべきではないか。これは札幌で住宅街の中に熊が出て、結果的に猟友会の方が殺したのですが、あの行為をとっても、全国から「何でそんなことをするんだ。」という批判が相当、札幌市に寄せられたそうであります。もちろん、自然と共生することは大事。ただ、苫小牧の歴史を見ていると、苫小牧港湾、苫東、最近では中央インター、これ、みんな自然保護

団体の方が反対されてきた経過がありました。インターチェンジもそれがあったからこそ中央インターできなくて、東西これだけ距離のあるインターになったのですね。しかし、今、逆に要望が出て、今回、来年供用開始になります。苫東も随分反対の動きがありました。港のときもそうでありました。しかし、結果として今、港があって苫東というのは、今の苫小牧、あるいはこれからの苫小牧を考えたときに、もうあれがなかったらこれだけの人口集積はなかったということは、皆さん御理解いただけるかと思います。

我々は、やっぱりきれいな町を創っていく。この次の世代、若い人たちがこの町で生まれ、この町でしっかり人生チャレンジできるような、良質な雇用の場をどれだけ作れるのかというのが問われている今だと思いますので、まあ、そんな思いの中でチャレンジをしているこのことを是非、御理解をいただければというふうに。まあ、言葉は足りませんが、この話をしたら２時間ぐらいかかってしまいますので、お許しをいただきたいと思います。

◆市民　環境についての影響がちょっとよく分からなかったのですけれども、熊の猟友会との約束というのは、市長様、御存じないんですね。その地域には熊が出入りをするところなので、撃たない地域にしようという話し合いが持たれた。いつかというのはちょっと分からないのですけれども。

◎市長　まあ、猟友会の[redacted]さんも、私、よく知っていますので、確認してみます。

◆市民　是非、お願いします。で、環境、新聞をお読みになったら、本当に環境に壊滅的な影響があるのではないかということについては、ちょっと今のお話では納得できませんので、

◎市長　きょうの苫小牧民報に出ていますけれども、きょう、たまたま記者会見があったものですから、我々ＩＲのためだけではなくて、あのゾーン全体を国際観光リゾートにしようと言っていて、あの周辺の環境調査をですね、今までも独自でいろいろなデータを集めています。しかし、これから、まあ、科学的な見地も含めて、環境調査するのには予算が必要になります。

◆市民　是非、地質の専門家とか、そういう専門家の意見をどんどん調整して、

◎市長　そうですね。それは、やっぱり専門家の知見も入れてですね。ただ、今の時代は皆さん分かると思いますが、活断層の問題でも何でも、同じ専門家が１８０度違う意見を持っていて、それがお茶の間に流れている日本の悲劇というのもありますので、是非ですね、専門家はもう少ししっかりイニシアチブをとってですね、余り１８０度も違う意見もお茶の間に流さないでよというふうな思いもしますけれども、しっかり専門的な知見も含めて調査をしたいと思います。

◆市民　ありがとうございました。

○司会　はい、ほかに。後ろの男性の方。

◆市民　川沿三丁目の[redacted]です。実は昨年、市長さんが、宮の森の会場でＩＲについて質問したときに、最後に私、聞き間違いかどうか知りませんけれども、皆さん安心してくださいと。ＩＲやカジノに反対しているのは、一部の政党なのですからと。確かに一部の政党かもしれないですよね。議会、市議会では少数派かもしれないけれども、多くの市民世論は７割近くが反対しているじゃないですか。で、今、私が、市長さんが今、言いましたけれどもね、ＩＲと調べたらカジノ基本法と出ているのですよね。どうしてもカジノ基本法になってしまうのか、あれなのですけど。それで、私は、先日、市長さんがね、道議会の自民党議員団に陳情されたようですけれども、促進

してほしいということで。私は、単純です。十数年前に私の知り合いで自営業者が、奥さんがパチンコですけどね、長い間パチンコやって、借金だらけになって、本人は自宅の車庫で自分で首をつったという事件がありました。で、これは市外ですけどね、私の親戚で１９歳の大学生がやっぱりパチンコで、だったんですね。これ、パチンコの基本法はできたと言いながらも、本当に私たち日本国民はパチンコに依存する状況というのは諸外国に比べて違うんですよ。それで、いわゆるギャンブルに対して、その対策がどうなのかということですね。今、韓国は大変な状況になっています。まあ、カジノというのかＩＲというのか、カジノができたので。その前に、１０年前にはパチンコが、もちろん多くの国民がそういう被害を受けたというので、パチンコの事業そのものが法案で廃止するという状況なので。私はね、もう一度立ち止まって考える必要があるのではないかと。先ほど熊のことを言いましたけどね、[redacted]先生の話じゃないですけどね、市長は２０年、３０年の話をしているけどね、私たちも私も７０後半になりますけれども、５０年、１００年のことを考えた場合、ちょっとカジノは最近の何か政府の考え方では、カジノは一旦入れると、市長さんや議会の考え方が変わると、カジノさん出てくれと言ってもそうはならないんですというような話もしているように、いま一度、もう少し、もっと市民の声を聞くような方策か何かをね、やったらどうでしょうかなと思います。以上です。

◎市長　皆さんの多様な意見があるということは、知っています。その意見を持つために、やはり正確なＩＲ、統合型リゾートをしっかり理解してもらうための努力は、これからもしていかなければならないなというふうに思っています。まあ、やはり苫小牧も５年前から人口減少時代に入っています。昨年一年間で生まれた赤ちゃんが、１，２４３人。亡くなった方がもう１，８００人台。これは、もう間もなく２，０００人。自然減が今５００人、６００人オーダーですが、間もなく、やっぱり、もう１，０００人にどんどん、どんどん近づいていく。昨年、社会増５２人だったのですが、二桁くらいの社会増では追い付かないぐらい、人口がどんどん減っていきます。で、まあ、やっぱりそういう意味で流失をいかにとどめていくのか、流入をいかに確保していくのかということを考えないと、やはりこれから、僕らの代はいいのですが、次の代、本当にこの町、食っていけるのか、この国、食っていけるのか、という不安が今、我々の年代であればですね、皆さんやっぱり一抹の不安、これで大丈夫かというふうな思いはあろうかと思います。これ、日本社会全体の課題であります。先進国の中で人口減少と高齢化が同時進行している国は、一つもありません。日本が正に、その新しい時代の壁を乗り越えていくということを今、もう既にその過程に入っているわけですね。そういうさまざまなことを考えて、もちろん自然は守る。何回も言いますが、我々、人間環境都市を守り抜くというふうな思いの中で、どう調和しながら雇用の場を作っていけるのかということにチャレンジしていかない限りですね、もう本当に心配なのです。

　やっぱりこの町で生まれ、少子化によってですね、一人っ子の家庭も多くなっています。最近、四十代、五十代で東京で一生懸命頑張っている苫小牧生まれの青年から、まあ、青年ともう言えるような年代でもない方もいるのですが、やっぱり片親が病気で、今、もう入院しちゃったと。いずれ、自分が面倒見なければいかんと。で、今の仕事を辞めてですね、苫小牧で就職したいと。それを決意したと。給料は下がるけれども、やっぱり自分は子供の責務として、やっぱり親の面

倒を見なければいかんという方が増えてきていますし。東京で定年を迎えた、で、親ももう高齢なので、老後は苫小牧で住みたい。ところで市長、市営住宅ないかっていう問いも結構あるのです。その方は横浜に住んでいました。横浜に住んでいる家を売ったら、豪邸建つよ、というみたいな話をしながら、そういう話題が少しずつ増えていると感じています。ですから、今、この時代の大きな転換期、時代の変わり目にですね、やっぱり半歩先を見た都市戦略、都市経営をしていかなければ、もう本当に残るはじり貧しかなくなる。じり貧の町だけにはしたくない、そんな思いでチャレンジテーマの一つとして、臨空ゾーンにおける国際リゾート構想にですね、今、取り組んでいることを、是非、御理解をいただきたいと思います。

御心配の点は、よく分かります。それは、市民の皆さんが御心配、できるだけ、その心配の度合いを低くするように、我々行政としてしっかりとやっていくし、ギャンブル依存症も昨年法律ができたので、国の責務、都道府県の責務と同時に、市町村の責務が発生しました。で、その責務の中ですね、悩める家庭、悩める人の悩みをですね、やはり、我々、官の立場でしっかりとその悩みを少しでも少なくなるような努力は、法律でこれから義務付けられることになりますので、国と都道府県と連携しながらしっかりとやっていきたい、そんな覚悟であります。

◆市民　いや、カジノの話になりますけれどもね、奈良時代から当時の推古天皇ですか、すごろくだのカジノに類することをやめるというのが、日本のこれは伝統的な刑法でなっているのですよ。それが括弧付きでということなのですけど、苫小牧というか日本の将来のために、人の不幸で町を成り立たすというか、そういうことが未来があるのでしょうかね。いや、よく言われます。おまえが行かなければ、我々が行かなければいいんだと。大いに行く人は勝手に行けばいいという、そういう具合にならないと思うのですよ、ね。是非ですね、人の不幸でね、町が繁栄し、将来がよくなるというのは、それは切り替えなければならないと思います。もっとですね、今の自然と共生することを考えるべきではないかと私は思っています。

◎市長　十分、御意見は理解しているつもりでおりますので、御意見として聞いておきます。

〇司会　ほかに御質問等、ございませんでしょうか。はい。

◆市民　澄川町から参りました[redacted]と申します。よろしくお願いします。夜間の交通アクセスに、西側の交通アクセスについてお尋ねいたします。ＪＲ、私は仕事で札幌に行く機会が多いのですが、道南バスの最終便、駅前からですね、こちら柏木町さんも含めてですけれども、最終が２１時５５分です。以前、２２時１０分だったのですけれども、繰上げになってしまいました。ＪＲで札幌から参りますと、苫小牧着２１時４９分。たった６分で乗換えをしなければなりません。仕事が遅くなって繰り下がった場合、タクシー若しくは自家用車どちらかを使うしかないのですけれども、普通電車でタクシーを使うとなると、普通電車で自家用車に乗り継ぎということになりますと、自前で駐車場を用意しなければならないと。かといって、タクシーを呼ぼうと思っても、最近、何回かタクシーを使わせていただいたんですが、コールセンターに電話しますとタクシーは回せません、と。後でタクシーの運転士さんに、別の機会にタクシーの運転士さんに伺いましたら、いやいや、我々も高齢化で、というか人数が少なくて、夜、配車ができないと。営業所に置いてあるのが１台、２台程度で、それもあちこち、錦町のその辺ですね。繁華街のほうに集中

していて、駅前などには行っていられないということをおっしゃっていました。

あわせまして、タクシーの運転士さんなりバスの運転手さん、特に二種ですけれども、高齢化に伴って二種の免許取得するのに難しいので、今後、あと１０年ぐらいすると、もう、運転士さん、いなくなるよというような話も出ておりました。この辺の対策というのは、例えばバスにしても何にしてもそうですけれども、運転士さんいなくなると何もできなくなるので、市役所さんとしてのお考え、何かございましたら教えていただきたいのですが、よろしくお願いします。

○司会　はい。西側の公共交通機関についての御質問でございます。回答、お願いします。

◎総合政策部長　公共交通のほうの所管しております、総合政策部長の木村でございます。道南バスさん、そして、ＪＲ。そのダイヤの問題について、なかなか市としてそこを何とかできるかというのは大変難しい問題なのですけれども、このへん、ちょっとその、時間帯の、最終便の時間帯等々について、まあ、そういうお話があったということはそれぞれお伝えしたいと思いますし、それがどのように要望がかなうかというのは、なかなかここでは申し上げられませんけれども、そういったお話はさせていただきたいと思います。

それから、やはり特に道南バスさんにおいては、運転手不足というところでのバスの減便なども発生しているのが現実であります。で、まあ、これ、バスだけではなくて、今、どの業種、業態も人手不足というところでは、非常に悩みを抱え、これから更に生産年齢人口の減少ということを考えた場合、いろいろな対策をそれぞれの会社も含めて考えているということは、私どもも聞いていますけれども、なかなかその具体的な解決策、根本的な解決策というところがまだまだ見出せない状況だと思います。例えばバスであれば、自動運転がどうなのかですとかですね、人に頼らないそういう運転の手法がどうなのかというところもありますけれども、なかなか開発にはまだまだ時間がかかる部分がございますので。まあ、市としてもこの人材不足に対する対応というところも含めて、企業さんの支援というところにも動いてる部分がありますので、そういった面でなるべくこの公共交通に関しても、市民の皆さんにもなるべく御不便かけないような対策が打てるかどうかというところも含めて、いろいろと検討してまいりたいというふうに考えております。

○司会　ほかに、御質問ございますでしょうか。前のほうに来ていただいてよろしいですか。

◆市民　宮の森町内会の[redacted]です。毎年、意見を言わせていただいています。さっきからカジノを含むＩＲの問題、出ているのですけれども、僕も個人的に意見要望書を出して、市のほうからかなり詳しく返答いただいています。ただ、その中で見ていてやっぱり気になるのは、先ほど市長さんが、面積はね、占める面積３％と。これ、確かにテレビのいろいろなニュースを見ていても、みんなそうやって言っているのですよね。ところが、頂いた返答などを見ても、それではＩＲ全体としてのね、何というのかな、できた後の施設の運営であるとか何かを考えると、やっぱりカジノの収益に相当頼らざるを得ないというようなことが読み取れるんですよ、この中からね。そうすると、やはり、ＩＲ、カジノがくっ付いている。ただくっ付いてるだけだというふうには、やっぱりならない。多分、カジノを中心にしないと、このＩＲ構想そのものが回っていかないのだと思うのですよ。そうすると、結果的には、やはり、カジノ。まあ、僕たち余り言いたくない

けれども、ばくちに頼らざるを得ないと。

それから、この問題が出てきたときに、確か外国の観光客をたくさん呼び入れたいのだというところが、かなり強調されていたと思います。ところが、実際にテレビのいろいろなカジノの参入を表明している業者の人たちの話を聞いても、それから、新聞報道などを見てもね、実際にそうしたら、そこのＩＲ、カジノを仮に言葉を付けないでＩＲといっても、そこに集まる国民の％はどのくらいだというとね、カジノ業者も言っていますよね、５０％から７０％は日本人だと、対象は。これで、出だしの頃の説明と、大分、変わってきているんですよね。つまり、そこへお金をつぎ込むのは、国民自ら。それから、苫小牧市民、苫小牧の周辺の人たち、北海道の人たち、広くは日本国民ということになって、何か発想の出だしから、大分、中身が違ってきているんではないかなという感じを一つ持っています、強く。

それから、ニュースをいろいろ見ていても、アメリカのカジノの発祥の地のね、ラスベガスも最近は非常に町の中が寂しくなってきて、カジノでは食っていけないのだと。もっとほかのしっかりしたものを作れということで、大学を作るようにという運動が起きたり、いろいろな文化的なものをね、もっと広めようという動きが出ているのだというふうにも聞いています。ですから、やる前からやっぱりいろいろな全国の例、シンガポールの例が盛んに出ていますけれども、いい例よりもやっぱり弊害のある例のほうが全体的には、僕はやっぱり多いのだと思いますよ。そうなってくると、良質な生活環境を子供たちに残したいといったときの、良質の良質というのは一体、何なのか。これはね、やっぱり本当に、僕たちが真剣に考えなければならないのだと思うのです。特に僕などは元々ね、学校に居て中学生相手にやってきたものだから、やっぱり中学生の問題行動を通して、その過程であるとかいろいろなことを見るときに、その中でこの、いわゆるギャンブルがどういう働きをしているかと考えれば、やっぱりね、子供たちにとってはいい環境はこの町にはできないというふうに僕は思います。ですから、是非、そこを考えてほしいなというふうに思います。

それから、一つ災害に関してです、防災ですね。これもここに僕、毎年来ていて、ずっと言わせていただいていたのだけれども、去年の厚真のときもそうでしたけれども、やっぱり各町内会と市がね、防災ということを考えたときに、災害が起きたときに、どういう連絡体制をとって市民がどういう状況に置かれているかというのは早く把握しないと、市民は何をどうすれば、自分も分からないと。例えば広報車も回っていました。ところが、広報車の方を捕まえて、今、水道はどうなっているんだと聞いたら、分からないと。だけど、広報車は回っている。だけど、一方ではデマが飛んでね、水を早く貯めなきゃ駄目だとかとなっているのですよね。結果的に、僕も町内会でも確認しましたけれども、あの災害の後に各町内会の状況がどうだったのかという、その、何というのかな、データ収集というのかな、次の災害に向けてのそういうことも何か余りやられていない感じがします。

それから、うちの町内、水につかりました、一丁目が。そのときに、ほかの町内も結構水につかっていたはずです、床下までいったかいかないかは別にしても。例えばそういうものが、市として次の防災に対する手だてとしてね、どこが何ミリの雨が降ったときには、この地域がこんな

ふうに水が出ていて、水につかっているようだとかという、そういうデータ集積がされているのか。で、最大の、やっぱりまだ僕が心配なのは、いろいろな災害があったときに、その情報収集はどうするのだろうなという。一回、僕、言いましたよね。そうしたら、電話があるだとかね、市の職員が出かけていってとかという話をしていたのですが、この何回かの中では、それは残念ながらなかったですよね。市の職員が全市にかなりいるわけですよ。そうすると、防災対策の中でね、その市が自分たちの住んでいる町内会の様子がどうなっているかというのを、例えば市の職員の方が分担して、担当者を決めていて、何かの災害があったときにはその方たちがね、きちっと状況を集約して、市の防災のほうに集約しながら体制をとるとかというね。まあ、変な話、電気に頼らない、人の力に頼る。そういう最悪の体制などのとり方なども考えておかないと、なかなかうまく、防災、防災と口では言うけれども、いかない部分がかなりあるのだと思います。今回の千葉もそうですよね。結局、離れたところでたくさんの電気が来ないという人もいます。

○司会　すみません。大分、長いようですので、ここで回答させていただきたいと思いますが、いいでしょうか。

◆市民　すみません。なかなか質問もなかったようなので、ちょっと長くしゃべりましたけれど、そういうのを今、言ったことでちょっと回答をお願いしたいと思います。

○司会　はい。防災対策について、情報収集、情報発信、それから検証等についての御質問だったと思いますので、回答よろしいでしょうか。

◎危機管理室主幹　危機管理室の前田です。昨年の震災も踏まえてですね、情報というお話がございましたけれども、確かに情報が去年の震災では一番苦労したところでありました。なかなか、確定的な情報がないという中でですね、どこまで情報出すかということは非常に苦労した中で、今、お話ありましたけれども、広報車を出したりですとか、あるいは防災のメールを流したりですとかをさせていただきました。で、今、お話のとおり、地域の情報をどう集めるかというところについては、確かに課題があるというふうに思っておりますので、今、昨年以来ですね、いろいろと今課題検証をしております。その中にも町内会さんとの情報の連携をどうしていくかというところは、一つのテーマとして考えていきたいなというふうに思っております。

　で、一つだけちょっと情報の部分で、今、私どものほうで検討していることを御紹介差し上げますと、先ほど防災行政無線というお話をしました。で、それが錦多峰川から西側にしか今ないのだというお話をしました。で、残念ながら、錦多峰川から東側に今、無線がないのです。一斉に情報発信する手段がなかったのです。そういうこともあった中で、一部の部署が車で回ってもらいました。全部で８回ほど回ってもらったのですよね、市内を１９ブロックに分けて。一部の情報しかなかったかもしれませんけれども、８回ほど市内を、全市を回って情報発信をしていきました。ただ、一斉に情報発信する手段が今ないということで、今、無線、屋外スピーカーを何とか、どこまで拡大できるかということを今、検討しています。できれば全市に拡大できないかなということでの今、検討も進めております。まあ、そういったことと合わせた中で、ただ、町内会さんとの情報と連携をどうしていくか、あるいはどういった情報を流していけばいいのかという、本当に昨年の地震では情報が必要なキーワードでした。デマ情報も確かに流れました。と

いうところも含めて今、「今、こうします。」というところを今、お答えを差し上げる段階までいってはいないのですけれども、そういう情報をテーマにですね、今、いろいろな検討をしているという状況についてお話をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

◎市長　ちょっと補足しますけれどもね、今の防災行政無線、今、２０基から２００基にします。で、これがあと２年でですね、今、アナログがもう使えなくなって、デジタル化しなければならないということで、これの総額が１７億から２０億かかります。で、まあ、しかし、市民の安心安全、あるいは災害のときの周知の在り方について、議会でも大変厳しい御指摘をいただいています。ゆえに、我々、やっぱりこの次の世代のためにも、デジタル化する防災行政無線をしっかり２００基で足りるかどうかという問題は別として、海外産を中心に全市的にこれを網羅するための処置に取り組んでいきます。１年、２年ぐらいの期間では、多分、できないと思います。財政状況とにらみながらやっていくので、一定の時間はかかりますけれども。まあ、しかし、さまざまなスマホ、あるいはいろいろな伝達手段がありますけれども、外でお仕事をしている方とか、いろいろなことが昨年、あるいは東日本大震災以降言われておりますので、それだけの投資をしながら、２００基をめどに付けていきたいなというふうに思っていますし。

職員の問題も出ましたけれども、例えば、昨年だと第３配備体制という我々のマニュアルがあります。その場合には、ほぼ全員の職員が各避難所に行ってですね、避難所開設の準備、運営、全てこれ、市の職員が責任を持ってやっていく。はじめ、さまざまな第１配備体制、第２配備体制、第３配備体制の中で、職員全体で市民の安心安全を守るためのですね、行動。つい先日も、防災訓練、総合防災訓練をやりまして、昨年の震災の後だったので、非常にこう、考えさせられる訓練をやりました。幾らマニュアル作っても、幾らＢＣＰを作っても、まあ、やっぱり訓練は大事だなということを痛感したのですけれども、これからもですね、万が一のときに、市民の皆さんに余計な心配、不安を与えないように、しっかり取り組んでいきたいと思います。

まあ、カジノの話を[redacted]さん、毎年いただいて、もう、本当にありがたいと思っていますけれども、また、時間が、また、こっちから怒られますけれども、是非、皆さんね、３％以下だけど、収益は７割とか８割だろうと。確かにカジノの収益というのは、ＩＲの全体で大きいと思います。ただし、これはもう、ここから先は、なかなか言えないのですが、実際に収益を上げるのはＶＩＰルームなのです。で、このＶＩＰルームは、多分、今、苫小牧市民でＶＩＰルームに登録、これは登録しないと入れません。多分、一人もいません。ですから、まあ、そういう意味では、日本人でもなかなか、登録されていないと入れないというところでありますし、平場でも一回６，０００円払って、皆さん行きますか。だけど、オペレーターサイドからしたら、いや日本人なんか入れないよ、来なくていいよ、なんて言えますか、そういう調査、行ったときに。これから事業をやろうとしている人、やっぱり日本人も当てにしますと、当然、質問があったら言うのではないですか。ただ、一回６，０００円払ってですね、で、回数も制限されます。これは法律で制限されていますので、パチンコのリピーターさんが、じゃあ、カジノに行けるかというと、そうはならないというふうに思います。まあ、ただ、やっぱりこの周辺の人というか、近隣の人には、だけどショッピングとかエンターテイメントにはテレビでしか見れないところが間近で見

れる。というところは文化、カルチャーも含めてですね、是非、地元の皆さんにもたくさん楽しんでいただきたいということになるので、これ、説明するのは非常に難しいのですよ。カジノなんか、６，０００円払って行くかと。ＶＩＰルームは、入れないよ。と言いながら、ショッピングとかエンターテイメントは、是非、地元の皆さん行ってくださいというような言い方になってしまうのですけれども、是非、そんな変なものを持ってきませんから、心配しないでいただきたいと思います。

○司会　大分、時間が経過してまいりました。最後にどなたか、身近な問題等で御質問があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、じゃあ、最後に、前の方。

◆市民　柏木町の[redacted]です。苫小牧は非常に水がおいしいというか、水資源がいっぱいあると思うのですけれども、何か最近、何か、北海道の水資源が危ないということで言われています。ですから、苫小牧についてはね、水資源はしっかり押さえているのでしょうか。それと、安全ですか。汚染とかそういうものに対しては、どのような取組とか、いろいろな規制をされていると思うのですけれども、そこら辺について、ちょっと教えていただきたいなと思います。

○司会　はい、苫小牧の水について、回答をお願いいたします。

◎水道整備課長　水道整備課の清重と申します。水の安全の確保というようなことだと思いますけれども、苫小牧、今、浄水場が二つございます。高丘浄水場とこの地域ですと錦多峰浄水場と二つの浄水場があります。で、それぞれ水源が樽前山麓の森の中を水源としていますが、特に錦多峰の上流付近には、道道が通っていますので、あのあたりを水源保護地域として指定しまして、不法投棄であるとか、そういったものがないような管理をするというようなことで取り組んでおります。非常においしい水だということで、いろいろな評価をいただいて、先日はとまチョップ水ですね、モンドセレクションの金賞というのを受賞しました。新聞等で報道されていますので、御承知かと思いますが、是非、引き続きおいしい水道水を作り続けたいと思いますので、皆さん、たくさん飲んでいただければと思います。よろしくお願いいたします。

◆市民　外国人に押さえられるということはないと。

◎市長　今のは、外国人に押さえられるという話でしょう。

◎水道整備課長　はい。すみません。そういったことは、今、苫小牧では起きていません。

◎市長　大学演習林、買収されるようになったら危ないなと思いますけれども。

○司会　おおむね終了の時刻となりましたが、これをもちまして終了とさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、終了に当たりまして、市長から御挨拶を申し上げます。

◎市長　きょうは何か、身近な問題は余り御意見等をいただく時間がなかったのですが、大変申しわけないなと思いますが、統合型リゾートについていろいろな質問をいただくのは、我々にとっては非常に歓迎したいと思います。いろいろな機が熟して、新聞報道も多くなってきている昨今でありますので、少しでも生の声を聞いていただければ我々にとっても非常にありがたいことだなというふうに思っております。是非、これから生まれてくる新しい市民が、自信を持って地元で頑張れる苫小牧をどのように創れるのかというのが問われている時代でありますので、そんな思い

をしながら、新しい市民のために何が必要なのかという観点から、いろいろ取り組んでいるということを御理解をいただきたいと思います。

また、身近な問題で何か困ったようなことがありましたら、町内会長さんでも結構ですし、きょうは市会議員の皆さんもいるので、どんどんぶつけてほしいと思います。それが、すぐやったら「市役所、大したものだ。」、できなかったら「市会議員、何やっているのだ。」と言っていただいて結構ですので、まず、やっぱり声を届けていただく。きょう、この後でもいいのですが、声を届けていただく。それをチェックする。本当に急に必要なもので、すぐできることはすぐやります。できないことはできないと言います。まあ、そういうめり張りのある市政運営をせざるを得ない時代でありますので、しっかりと皆さん方の声を届けていただいて、できることはすぐする。まあ、そこに徹して、市政運営を心掛けていきたいなというふうに思います。

最後になりますけれども、御熱心にこの時間までお付き合いをいただきましたお一人お一人の皆様方に心から御礼を申し上げまして、最後の御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

○司会　以上をもちまして、まちかどミーティングを終了いたします。

本日はありがとうございました。